



岡谷蚕糸博物館の外観

製糸機械類を時代的背景に基づき展示する我が国唯一の博物館として、1964(昭和39)年に開館した「岡谷蚕糸博物館」。

「ブランド」の情報発信拠点となる。「コミュニティ・ワークショップエリア」は、養蚕・機織り・カイコ学習・まゆアート・研

新しいタイプの博物館として期待が大きい。入館料は大人500円、中学生300円、小学生150円、10人以上200円もある。開館時間は午前9時～午後5時。休館日は毎週水曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日。

なお、開館記念として8月1日から9月30日まで「桂由美フライタルシルクファッション展」も館内に展示される。

問い合わせ 026-6(23)3489。



製糸工場の業務も見学できる

ゲストハウスを開設

バス会社・平成エンタープライズ

バス事業を中心に展開する平成エンタープライズ(田倉貴弥社長、埼玉県富士見市)は、このほど、東京・東日暮里に宿泊施設「ゲストハウス WASAABI わさび」をオープンした。運輸から宿泊まで複合展開することで付加価値を創造し、サービスの向上をはかる。同社の狙いや施設の概要を紹介する。

同社は東京・大阪などを中心に高速バス「VIプライナー」を運行する展開しており、宿泊業への参入もバス利用者へ休憩所を提供したいという発想から生まれた。狙いはサービス向上だ。

田倉社長によると、昨年の新高速バス移行後、高速バスは競争が再度激化したという。「パイが減っているのだから、最低価格が下がっている。リピーターを増やすため、別のサービスを展開して、利用価値を生み出したい」と語る。

高速バス利用者は休憩所として無料で「わさび」を利用できるほか、宿泊者が同社バス以外の交通手段で移動しても、旅先の同社ラウンジでサービスを受けられる。

当初、大阪のVIPラウンジに宿泊し、訪日外国人観光客が増えていることも追い風だ。「旅行会社には高速バスとドミトリー、東京にはドミトリータイプ

富士山絵のある大浴場



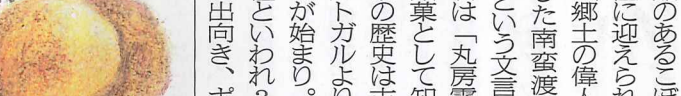
和を感じる化粧室

から成田の空港リムジンバスが付いたユニットとして販売し、ツアーの一部に組み込んでもらうことにしたい」と意気込む。また、個人の外国人観光客で高速バスを使う場合、ゴールデンルートのお金が掛かってしま

の東京・大阪間が最も多い。同社もこの路線を多く持つので、バスと宿泊をパッケージにして売りたいと話す。

今後は、9月の開業を予定する大阪のほか、国内外の観光客の多い浅草や富士山、京都、TDR周辺の葛西などに宿泊施設を展開を検討しているという。「東京もラウンジを含め山手線内に転々と拠点を作っていくと、その各施設の前にバスの停留所も作れるように努力していく」と夢を語る。

「元祖丸房露」



御菓子司 佐賀本店

と品のあふ(ほれ)そうな笑顔の女性に迎えられる。「郷土の偉人、大隈重信も愛した南蛮渡来のハイカラ菓子」という文言が目に入る。その名は「丸房露」。今では佐賀の銘菓として知られているこの菓子の歴史は古い。江戸時代、ポルトガルより長崎に伝えられたのが始まり。鶴屋のそれは、元祖といわれ2代目大兵衛が長崎へ出向き、ポルトガル人の製

「元祖丸房露」

工場の見学をさせていた。紙製の帽子を被り高温の部屋へ。3人の職人さんが大きなオーブンから焼きあがった丸房露を出しているところだ。丸房露が、我われの目の前にやってきた。待ってましたといわんばかりに、きつね色に焼きあがったそれは、すでに私の口に入ろうとしている。わあ。何と華味しいでしょう。焼き立てとはいえず、今までもこれほどまでに香ばしくて、ふわっとして、品のいい御菓子に出会ったことがあったらどうか。小麦粉、砂糖、鶏卵に蜂蜜を加え、と変わらぬ製法で手作りしている素朴な南蛮菓子。大隈重信でなくとも毎日焼き立てが食べられたらなあと心から思える一品だ。(トラルバルキャスター

てリニューアルオープンする。オープンキッチン設けのビュッフェカフェ、可動式パーティションを取り入れるほか、後の時間帯にはスイーツフェアなど、新メニューも展開する。装工事費は約5億7000万円。

旅館上御殿

紀伊半島南部の山深い地に龍神温泉は湧く。源泉地の周辺に旅館や民家が軒を並べ、上御殿はその中ほど、背後を流れる日高川に沿って建っている。間口が約18坪もある平入りで、木造2階建て本瓦葺きの堂々たる建物である。

上御殿の歴史は江戸時代初期にさかのぼる。紀伊徳川家の初代である徳川頼宣が別荘を龍神温泉に建て、その管理を土地の豪族であった龍神家に命じたのが始まりである。「上御殿」という名称はその時に付けられたもので、以後も長く龍神家は湯と宿を守り続けてきた。現在の当主は29代にあたる。

龍神家に残る家系図をたどると、その祖は清和源氏であり、現在地に居を構えたのは平安時代末期のこと。源姓を改め、土地の名をとって「龍神」を名乗った。初代は龍神頼氏で、上御殿を任されたのは13代の龍神正貞のころだったようだ。由緒ある旧家のため、紀州藩も藩主の別荘を管理させたのだ。

江戸時代初期の建物は、その後も修理しながら使われてきたが、1884(明治17)年の大火で焼失。翌年に再建されたのが現在の旅館本館である。背後に別館が建ち、客室は本館に5室、別館に6室ある。

登録有形文化財になっているのは本館で、立ちの高い1階やふくろみ帯を帯びた2階のむくり屋根が豪壮な印象を与える。玄関を入ると正面に明治以来の古風な衝立があり、ヒノキ一枚板の上がり框と式台が横たわる。分厚い踏み板の2階への階段があり、天井は太い材で縦横に抑えられている。美しく、そして丈夫だ。「大きな修理はほとんどした記憶がありません」と女将の龍神千恵子さんは



道に面した長い縁側では旅人が休んだという。宿の前が古道の龍神街道である

「木の国」でもある紀州の材木を、惜しげもなく使った堅固な構造なのだ。本館の2階には「御成の間」がある。焼失後の明治の再建時に、紀州藩主の居室を再現したという。6畳の控えの間と、一段高くなった8畳の上段の間に分かれ、上段の間は一間の床の間に一間の床脇を備えた格式ある造り。落とし掛けに自然のままの変木を使っているのは、別荘らしくだけた雰囲気醸す数寄屋風の演出である。天窓の戸には江戸末期の女流絵師の松が描かれ、ふすまには徳川綱吉の絵師であった狩野信信の絵が描かれている。どちらも明治の火災時に危うく運び出され、江戸の香りを伝えるものだ。

御成の間はいつも一般客が宿泊できるが、かつてここで小説を書いた作家がいる。和歌山県出身の有吉佐和子だ。小説『日高川』には、上御殿が大黒屋という名称で登場し、「藩主の命令で建てられた(中略)宿の一つ」として描かれている。執筆の途中で、有吉はしばしば山へ弁当を持って出かけたという。宿の温泉は「日本三美人の湯」に数えられる名湯。自然も湯も和風の建物も、作家の心を大いに癒したことだろう。

紀州藩主の別荘に由来する格式ある造り

「木の国」でもある紀州の材木を、惜しげもなく使った堅固な構造なのだ。本館の2階には「御成の間」がある。焼失後の明治の再建時に、紀州藩主の居室を再現したという。6畳の控えの間と、一段高くなった8畳の上段の間に分かれ、上段の間は一間の床の間に一間の床脇を備えた格式ある造り。落とし掛けに自然のままの変木を使っているのは、別荘らしくだけた雰囲気醸す数寄屋風の演出である。天窓の戸には江戸末期の女流絵師の松が描かれ、ふすまには徳川綱吉の絵師であった狩野信信の絵が描かれている。どちらも明治の火災時に危うく運び出され、江戸の香りを伝えるものだ。

御成の間はいつも一般客が宿泊できるが、かつてここで小説を書いた作家がいる。和歌山県出身の有吉佐和子だ。小説『日高川』には、上御殿が大黒屋という名称で登場し、「藩主の命令で建てられた(中略)宿の一つ」として描かれている。執筆の途中で、有吉はしばしば山へ弁当を持って出かけたという。宿の温泉は「日本三美人の湯」に数えられる名湯。自然も湯も和風の建物も、作家の心を大いに癒したことだろう。

複合展開で付加価値

サービス向上はかる

今後は、9月の開業を予定する大阪のほか、国内外の観光客の多い浅草や富士山、京都、TDR周辺の葛西などに宿泊施設を展開を検討しているという。「東京もラウンジを含め山手線内に転々と拠点を作っていくと、その各施設の前にバスの停留所も作れるように努力していく」と夢を語る。



わさびの入り口に立つ田倉貴弥社長

離れ客室を新設

夕日百選の雑賀崎望む

和歌山県雑賀崎の「漁火の宿 シーサイド観潮」(坂口宗徳社長)は7月1日、夕日百選に選ばれた雑賀崎の眺めを独り占めできる、和歌山市で唯一の離れの客室「さ

「マジカル消臭3S」

省エネ 除菌 エコ

★エアコンのイヤなニオイも解消★

250ml/1,620円
500ml/2,700円(税込) ※プロ仕様

システム・シャイン・サービス

TEL:03-5996-5407

改装は8月1日から工事期間中は45階のラウンジを「ヒーヒー」

改装は8月1日から工事期間中は45階のラウンジを「ヒーヒー」